

病害虫防除所情報 第2号

令和2年6月1日
山梨県病害虫防除所

【せん孔細菌病の防除について(幼果期)】

1. 状況

4月中下旬の現地調査では、春型枝病斑（スプリングキャンカー）と見られる枝が確認された。5月中旬の調査では、園による差は大きいですが、葉や幼果にも病斑が認められている。今後もせん孔細菌病の果実への感染拡大による被害が懸念されるため、一層の防除対策の徹底が必要である。

2. 防除対策

罹病枝、発病葉や発病した幼果が伝染源となるため、これを残したままで強い風や雨が続くと感染が拡大するおそれがある。摘果・袋掛け作業とあわせて、発病部位のせん除などの耕種的防除を行うとともに、薬剤防除を継続して徹底する。

(1) 耕種的防除

春型枝病斑は見つけ次第せん除するとともに、病斑のある幼果は摘果し、ほ場外に持ち出すか土中に埋めて処分する。葉や幼果への発病がスポット的に見られる場合は、付近の枝に春型枝病斑があるので、必ず見つけて枝ごとせん除する。

特に、樹冠上部に残すと降雨により樹全体に感染が拡大するため注意する。

(2) 薬剤防除

下表を参考に、使用する薬剤の使用回数、収穫前日数に注意しながら定期的（7～10日間隔）に薬剤散布を行う。降雨が予想される場合には降雨前に散布する。

せん孔細菌病の果実での潜伏期間は、5月頃では2～3週間、6月頃では40日程度あるとされ、春型枝病斑や発病葉が見られる園では、幼果に病斑がない場合でも感染しているおそれがある。今後も継続して発病状況を観察し、袋かけ前に、前回の散布から間隔があき、降雨が予想される場合は、降雨前に追加散布を行う。

表 せん孔細菌病の生育期防除剤

時期	防除薬剤(100㎡あたり薬量)	使用回数	収穫前日数	注意事項
7～10日間隔	アグレプト液剤 1,000倍(100cc) アグレプト水和剤 1,000倍(100g)	2回以内	60日前まで	○枝先から樹全体にかかるよう十分散布する。
	マイコシールド 1,500倍(66g)	5回以内	21日前まで	○使用回数、収穫前日数に注意する。飛散に注意する。
	バリダシン液剤 25 500倍(200cc)	4回以内	7日前まで	○ネクタリンにはマイコシールドを用いる。

- ・生理落果の少ない品種では、予防散布後、早めに袋かけを行う。
- ・降雹や突発的な暴風、豪雨により新梢や葉、幼果が傷つくと、急激に感染が拡大する恐れが高いため、追加防除を行う。
- ・スプリンクラー等のかん水が直接枝葉や樹に当たると、感染が拡大するため、直接かん水が当たらないように注意する。

参考（5～6月の症状）



葉の症状：初期（左）は淡黄色の斑点を示す、症状が進むと中央部が褐色化して脱落（右）



幼果の症状：毛じ（うぶ毛）の下の不明瞭な病斑（左）、肥大後の褐色病斑（右）

5月



6月

春型枝病斑（スプリングキャンカー）

：暗褐色の隆起（左）から症状が進むと、亀裂を生じてヤニをふく（右）

